

# Viva 連絡会

特定非営利活動法人  
長野県宅老所・グループホーム連絡会 会報誌

Vol.10  
2019.4

## 新年度のご挨拶

特定非営利活動法人  
長野県宅老所・グループホーム連絡会  
理事長 宮島 渡



新年度を迎え、それぞれお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。日頃は、当会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。今年度も、研修や情報提供を通じて皆様の事業の応援を続けてまいりますので、何なりとご意見をお寄せください。

さて、長野県社会福祉協議会は昨年度実施した「福祉に関する意識調査」の結果を公開しました。それによると、「自助」の意識が高まる一方で、老後に関しては「可能な限り自宅で介護を受けたい」が減少し、施設等において介護を希望する人が50%を超えました。その背景には、6割の人が地域で助け合う「互助」が望ましいと言いつつ、地域での助け合いは3割に満たない状況にあることから、自宅でも地域でも高齢者が高齢者を支える仕組みでは将来の不安が広がり、元気なうちはなんとか自分のことは自分で、介護が必要になったら行政に頼るという構図が推測されます。

宅老所やグループホームは、地域で24時間365日活動する地域の拠点として活動しており、平成29年度より「福祉よろず拠点として」となるべく「宅幼老所ステップアップ研修」を実施し、地域住民、関係機関との「パートナーシップ事業所」として昨年度までに約70か所が登録されております。宅老所やグループホームが地域の困りごとを一緒に考え、解決に向けて取り組んでいく体制が少しずつ地域に広がっています。身近な地域で元気なうちから介護が必要になっても、地域に密着したサービス拠点がそのお手伝いをさせていただきたいと考えております。どうぞ宜しく願い申し上げます。

Contents

### Pick Up! 宅幼老所ステップアップ研修

- ◆グループホーム職員研修
- ◆全国宅老所・GH研究交流フォーラムin栃木
- ◆若年性認知症支援の報告
- ◆【リレー特集】南信会員の取り組み

3月6日

## 平成30年度 宅幼老所ステップアップ研修 全日程が終了しました!

今年で2回目の開催となる「平成30年度 宅幼老所ステップアップ研修」の全日程が終了しました。62の事業所から74名の方が受講されました。昨年度受講されたスタッフの活躍に影響されたり、受講を勧められて参加した方が多くいらっしゃいました。

延べ10日間(60時間)で地域とのかかわり、障がい者支援、子どもとのかかわり、認知症ケアを学ぶ本研修は、事業所の生き残りのためというより、何かを始めたいという気持ちを駆り立てられるものとなりました。これは最早、ソーシャルアクションにつながっていると言えます。

また、一見小規模事業所向けの研修に思えますが、実はケアワーカーからソーシャルワーカーと、職種を超えて必要な資質の習得ともなる内容です。

今年の7月から始まる「令和元年度 宅幼老所ステップアップ研修」にも、多くの方のご参加をお待ちしております。人を愛し、人を育み、地域に混ざり、日本の福祉の既成概念を打ち破りましょう!



研修最終日に、  
修了証書授与式を  
行いました!

### ステップアップ研修を受けて

今回ステップアップ研修を受けて、宅老所が地域の中で求められる役割について、深く考える良い機会になりました。宅老所は「地域の中の社会資源の1つ」であり、来てくださっている利用者さんのケアだけを考えるのではなく、地域の皆さんに気軽に立ち寄ってもらったり、困っているときにちょっと相談によってもらえる場所でありたいと強く思いました。考え方にブレーキをかけず、仲間とともにどどん前に進んでいきたいと思えます。

(有)かいご家 生活相談員 三村かほる

2月19日

## グループホーム・職員研修

(有)創生活環境運営 伊東進

2月19日に和田和男さんを講師にお招きして、GH職員研修を開催いたしました。和田さんの認知症高齢者に対する取り組みや、熱い想いを聞くことが出来ました。「認知症だからできない、危ない」ではなく「認知症を持っているけど〇〇さんのできること、やりたいことを形にする」事の大切さを知ることができました。

後半は県内の4つのGHの事例発表を通じて、ディスカッションをおこないました。GHならではの「あるある話」から「医療連携」まで、多岐にわたる意見交換ができました。

兎角、私たちは認知症状に目が行きがちになり、認知症状への対応や緩和策に力を注いでしまっていますが、その方の人生や、夢、やりがいをサポートする事が、一番重要な認知症ケアだと再確認できた研修でした。



## 平成30年度 若年性認知症支援の報告

若年性認知症支援コーディネーター 伝田景光

平成最後の若年性認知症支援事業が終了しました。昨年度と同様の啓発事業、相談事業、ネットワーク事業の三本柱でした。

今年度の特筆すべきことは「本人ミーティング」の定期開催が実現したことです。本人ミーティングに関しては、当初の県の計画にはなく、思いつきに近い状況で始めてしまいましたが、これが良かったです!



「本人たちが自分たちのために集まる」そんな目的をもって、毎月一回は開催が行われています。本人たちの思いや考えを実現させていくプロセスを第一に考えれば「本人ミーティング」はその出発点になるのではないのでしょうか?

どうしても本人と介護者の間は、依存的な関係になりやすくなっています。「主人がいなくて不安」「奥さんがすべて代弁してくれている」そんな状況になっていることが往々にして見受けられます。

しかし、本人ミーティングでは、ご主人がいないところで奥さんが笑って自由に話せます。介護者がいつも無気力になっていると訴えても、本人は介護者から離れて、笑顔で昔の自慢話をしています。お互いに冗談を言い、笑いあっています。

「自分らしく生きる、自分らしく暮らす」言い慣わされた言葉ですが、改めてその意味を考えさせられた活動になりました。そして本人の「サポーター」になるよりも「パートナー」になることを忘れてはいけないと思った一年でした。



2月23.24日

## 全国宅老所・グループホーム 研究交流フォーラムin栃木

(有)かいご家 松本徳弥

2月23、24日に栃木県宇都宮市で「第21回全国宅老所・グループホーム研究交流フォーラムin栃木」が開催されました。栃木県高齢者小規模ケアネットワークが中心となり、「地域共生社会の実現に向けて立ち上げられケアニン」をテーマに、200人以上の方達が全国から参加されました。

登壇者14名の中、女性はたった2名と男くさいフォーラムでしたが、三好春樹さんの講演や、栃木県からの若い青年達による「この町で共に生きるために…」と題した実践報告、医師が実践する医療ケアが必要な子供たちの支援など、制度にとらわれない新しい実践に未来を感じることが出来ました。

次回は  
2020年2月1、2日  
静岡での開催です!



# 南信会員の取り組み

【法人事業所名】

特定非営利活動法人かつら

- ・小規模多機能ホームはっぴーかつら
- ・かつら（通所介護）
- ・ヘルパーステーションかつら

〒399-3803 長野県上伊那郡中川村葛島685

TEL:0265-88-1077 FAX:0265-88-1078 e-mail:happy.katura1216@herb.ocn.ne.jp



もともと小学校の分校だった地で保育園を行っていましたが、少子化により閉園になったため、跡利用として平成17年に宅幼老所かつらを開設しました。この場所は、長年地域の皆様にとっても慣れ親しまれた場所でした。この思い出深い地をなくしたくないとの思いから、



春には見事な桜がみんなの心を温かくしてくれます

お向かいにある寺（延寿院）の住職が理事長となり、NPO法人を立ち上げかつらを開設、5年後の平成22年12月に小規模多機能ホームはっぴーかつらを増設し、現在は「通所介護」「訪問介護」「小規模多機能型居宅介護」と配食サービスや託児等自主事業を行っています。

理事長が住職ですので、開設時より月1回「法話」を行っています。地域のお年寄りの皆様が参加され、利用者の皆様との交流の場にもなっています。また、毎年5月には「かつらまつり」を開催、はっぴーかつらの職員と利用者様が、ステージで歌を発表したり、利用者様が頑張って縫った雑巾や刺し子、はっぴー農園で出来た野菜をバザーで売ったりしています。みんなで一緒に作り上げていこうという準備段階での会話も、とても楽しく、アットホームでいきいきとしています。

高齢になっても障害を持って、最期まで住み慣れた地域の中で自分の望む暮らしが出来ること、お世話になるだけでなく自分の持っている力を外へ、地域へ、そして社会へ広げていけるよう、スタッフ一同微力ながらもお手伝いをしていきたいと考えています。



かつら祭り

## 今後のスケジュール 研修の詳細、お申込みについては連絡会 HP (<http://nagano-taku-gh.jp>) をご覧ください

5月28日…認知症ケア・初級研修 (中信①)

6月 5日…通常総会・全体研修会

6月20日…認知症ケア・初級研修 (南信)

7月 9日…認知症ケア・初級研修 (北信①)

7月16日…宅幼老所ステップアップ研修 基礎・地域

8月 9日…宅幼老所ステップアップ研修 基礎・認知症

8月19日…認知症ケア・中級研修～ひもとき～ (中南信)

9月 6日…認知症ケア・初級研修 (東信)